

健康寿命 **5歳UP** キャンペーン

健者
新聞

シヤキツと



企画・制作/山梨日日新聞社メディア企画局

スバッ!

Q&A 認知症と言われたら…

だれもが発症する可能性がある認知症。「将来、認知症と診断されたら…」と不安に思う人は少なくありません。発症後の治療や豊かに過ごすためのポイントなどを、甲府脳神経外科病院理事長の篠原豊明医師に聞きました。



甲府脳神経外科病院
理事長
篠原 豊明さん

しのはらとよあきさん
甲府脳神経外科病院理事長。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経外科学会、日本臨床脳神経外科協会、日本早期認知症学会所属。



友人がかかりつけの内科医に
認知症の疑いがあるとされました。



認知症の疑いがあるかどうかは、かかりつけの内科などを受診し、簡単な物忘れテストを受けることで診断してもらうことができます。認知症の疑いと診断された場合、認知症の確定診断や原因となる疾患の有無を調べるため、まずは脳神経内科や脳神経外科、精神科を受診して検査を受けてください。



どんな検査をするのですか。



物忘れテストとMRIの画像診断、血液検査を行い、認知症なのか、脳卒中や甲状腺疾患など別の病気によるものなのかを判断します。認知症の場合は、SPECTという脳の血流を調べる検査で、アルツハイマー型か、レビー小体型などどのタイプなのかを調べます。アルツハイマー型を疑われる場合は、アミロイドPET検査で確定診断をします。



アルツハイマー型認知症と診断された場合は、
どんな治療法があるのですか。



MCIと呼ばれる軽度のアルツハイマー型認知症の場合、病気の進行を遅らせることを目的とした点滴注射療法があります。また、症状悪化の要因となる高血圧症や糖尿病の管理も行いましょう。



薬物療法以外にありますか。



非薬物療法としては、「脳のリハビリ」として、音楽療法、運動療法、アニマル療法などを行います。認知症予防の意味合いも込め、発症してなくてもカラオケやデイサービスに行ったり、スポーツジムでトレーニングしたりすることをお勧めします。無尽やサークル活動など、積極的に外出して人と関わるのが大切です。



家族はどう接したらいいのでしょうか。



周囲の人の関わりはとても大事で、否定せず、共感することを心掛けましょう。寄り添う気持ちを忘れずに、買い物や散歩、旅行などを一緒に楽しんで、独りぼっちにしないことも大切です。家族の皆さんも、一人で悩まずに友人や認知症カフェ、認知症の支援センターなどに相談しましょう。

掲載日：2026年 3月 11日 / 紙面頁 16

紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。

Copyright 山梨日日新聞社